

IT インフラを利用した選択世界史授業

神戸国際大学附属高等学校 地歴科 大木誠一

ohki@kobe-michael.ac.jp

研究主題

「歴史」を身近に捉えさせることをテーマに総合学習的な歴史授業の研究を行なった。紛争の続くパレスティナを取り上げ、戦争・宗教・民族という視点から歴史を考察し、紛争の生起する背景とそのなかで生きている同年代の若者の姿を理解させることで、高校生に自ら何か和平に貢献することができないかを考えさせる。インターネットなどを利用し、多様な視点や授業で取り上げる問題を越えたより広いテーマへ生徒の思考が発展することを期待した。

単元の概要

【実践対象】 3年生 選択世界史 【実施期間】 2学期 【総時間数】 10時間

学習
の
目
標

- インターネットを活用し、情報を収集・整理するなかで、紛争をめぐるさまざまな立場や意見を理解する。
- 問題の背景を把握し、自分との接点を考える。
- パレスティナ紛争やそれに関連する事柄について、自分なりの意見や考えをもつ。
- 情報共有・意見交換などを、少人数のグループで実施することで協調的な学習を実現し、個々人の思考を高め・深めることを目指す。

単元全体の構成

導入

ビデオや資料、WEB コンテンツをもとにパレスティナに関して現在起こっている諸問題の確認と紛争を現実のものとして捉えるための導入授業（1・2時間目）

展開

ビデオ・資料・WEB コンテンツなどを活用し、現在の紛争にいたる歴史的な経緯や紛争の様々な要因について学習する（3・4・7時間目）

思考

【ディベート】

歴史的な背景への理解を深め、和平について考えるきっかけを与える活動

思考の発展

思考

【ディスカッション】

紛争の解決策について、自分なりの意見・考えをもつための活動（8時間目）

まとめ【WEB制作】と相互評価

学習を振り返り、世界の若者を救うための提言を考え、発信する活動（9時間目）
相互評価と振り返りを通して、世界と自分との接点を見つめ直す活動（10時間目）

実践のポイント

< 1 > 思考支援型の授業

知識伝達型の授業ではなく、とにかく自分なりの考えをもたせるということを課題とした。和平に関しては答えがある、もしくはすぐに答えを出せる問題ではないため、生徒にも常々そのことに触れ、自分の意見を聞かせてほしいと授業の中で投げかけ続けることを行なった。最初は、問いかけても反応が薄かったが、自分の意見を持つということへの抵抗は少なくなってきたと思われる。

< 2 > 動画を効果的に取り入れ、生徒を授業に引き込む

今回の授業ではユニセフの教材以外にも授業内容にあった動画を多く取り入れ、学習内容のイメージ付けを十分に行なった。ただし、動画であっても長いものになると集中力が欠けてくるため、30秒～1分以内の短いものにし、インパクトをもたせた。



< 3 > 現在の人物や出来事と融合させ、歴史の要素を自然に取り込む

9.11 テロなど、生徒達がニュースなどで多少知識がある時事問題から授業を開始し、その背景を過去にさかのぼって見ていくという展開を試みた。その結果、生徒に時事的関心を持たせた状態で歴史学習へ繋げることが可能となった。また毎時間の最初に、最新ニュースの確認を行ない、過去の歴史的な事象が、現在の人物や出来事とつながっているということも常に意識させるように工夫をした。



< 4 > 自分達と同じ年代の若者の問題に焦点を絞り、より身近に感じるよう工夫

今の生徒達は、自分達に身近なことにしか興味を示さないことが多い。そのため、今回の歴史学習では、自分達と年齢の近い若者や子どもの現実を中心に取上げ、問題を少しでも身近に感じるよう工夫した。その点において、世界の子どもたちへの支援活動を行なっているユニセフの資料は大変有効に活用できた。



< 5 > ディベートやディスカッションを通して、学習内容の理解を深めるとともに、和平について考える

長い単元の間で、一度、学習内容を整理する手法としてマイクロディベートやグループディスカッションを授業に導入した。生徒たちにとってはディベートを行なうことは初めての経験であったが、「和平は可能か」というテーマでディベートを行なうことで、今まで学習してきた知識をもとに、自分の考えを整理するための有効な「きっかけ」となった。



< 6 > Web 制作を通して< 情報を発信すること >の意味を理解し、世界で起こっている事柄と自分達の身近な世界とが繋がっていることを感じさせる

今回の学習プロセスでは、Web で発信されている情報を活用して調べ学習を行ったり、ビデオでのインタビュー・ドキュメンタリー番組から、様々な人のおかれている現状や思いを理解し、それを材料としたディベートやグループディスカッションを取り入れた「思考する」学習をねらいとした。学習活動の最後として行なった WEB 制作は、その制作プロセスを通して「情報を発信する」ことの意味を理解し、世界で起こっている事柄と自分達の身近な世界が繋がっていることを感じさせることをねらいとして組み込んだ。



授業展開

学習段階	生徒の学習活動	教師の関わり支援・使用ツール
第1時	<p>【導入】最新ニュースの確認 1学期の授業内容を簡潔に確認し、パレスティナ問題に再び取り組むことを理解させる。</p> <p>【展開】ユニセフのHPと活動を紹介し、ヨルダン川西岸地域とガザにおける活動について講義</p> <p>イスラエルの高校のしくみと卒業後の徴兵制について調べ学習を行なう。</p>	<p>9.11 テロからイラク戦争への状況を把握し、これからの授業を若者の視点で捉えていくことを確認する。</p> <p>ユニセフ HP 使用</p> <p>イスラエル大使館の HP から、情報を収集させる。 ワークシート使用</p>
第2時	<p>【導入】最新ニュースの確認</p> <p>【展開】ロールプレイ 「18歳になった時、あなたはどちらで暮らしますか」 パレスティナ又はイスラエルについて、それぞれの状況設定の中で選択を迫り、最終決断の理由を問う。</p> <p>【まとめ】決断にいたる過程の発表</p>	<p>最新時事ニュースを通して流動的に動く情勢を理解する。</p> <p>生徒にパレスティナ・イスラエルの紛争を身近なものとして理解させる。 パレスティナ地域の若者が直面する現実を仮想体験させ、自分の問題として捉えさせる。</p>
第3時	<p>【導入】最新ニュースの確認</p> <p>【展開】「中東戦争」についての講義</p> <p>【展開】「PLO」についての調べ学習 中東戦争後に活発となる PLO について、組織、活動の歴史を調べさせる。</p> <p>【まとめ】授業の振り返り</p>	<p>最新時事ニュースを通してパレスティナの若者を取り巻く状況について再確認する。</p> <p>講義形式</p> <p>インターネットを使用 外務省のサイトなどを利用してワークシートにて PLO の概略を確認させる。</p>
第4時	<p>【導入】最新ニュースの確認 インティファダの歴史について概略を把握させる。</p> <p>【展開】インティファダ以降の歴史講義 インティファダ以降の状況を確認させる。 2000年以降のパレスティナ情勢を、ユニセフの活動などを通して確認する。立場の違いにより、提供される情報に違いがあることにも気づかせる。</p> <p>【展開】「ユダヤ人の迫害」についての講義 19世紀後半からのユダヤ人迫害について把握させる。</p> <p>【まとめ】授業の振り返り</p>	<p>最新時事ニュースを通して流動的に動く情勢を理解する。</p> <p>講義形式</p> <p>ユニセフなどの HP を参照させる。 ワークシート使用</p> <p>講義形式 パレスティナとイスラエル双方の歴史的状況を把握させることで、紛争の複雑性を理解させる。</p>
第5時	<p>【導入】最新ニュースの確認</p> <p>パレスティナ紛争に関する中間段階のまとめとしてマイクロディベートを実施する準備・企画を行なう。</p> <p>【展開】グループに分かれての準備・企画 3人ごとのグループに分け、ディベートにおける役割分担をする。 ディベートの運営方法を確認し、各自、準備を行う。 必要な情報を収集する。</p> <p>【まとめ】準備の進捗状況を確認</p>	<p>最新時事ニュースを通して流動的に動く情勢を理解する。</p> <p>マイクロディベートを使い、今までの学習の振り返りと問題の困難さを認識させる。 ディベートのルールを示し、グループ内の役割決定と運営方法を確認させる。 ワークシート使用</p>

学習段階	生徒の学習活動	教師の関わり支援・使用ツール
第6時	<p>【導入】ディベートの実施方法の再確認</p> <p>【展開】ディベート実施「パレスティナに平和は訪れるや否や」</p> <p> 平和可能 2分</p> <p> 平和不可能 2分</p> <p> 平和可能への反論 2分</p> <p> 平和不可能への反論 2分</p> <p> 審判 3分</p> <p>【まとめ】 審判の結果を確認</p>	<p>手順書を配布し、ルールを再確認させる。</p> <p>3人1組のマイクロディベートを通して問題の複雑さを確認させる。</p> <p>結果を確認後、「この地域で平和を望まない人がいますか」と発問し、平和を実現させる方法を今一度、考えさせる。</p>
第7時	<p>【導入】最新ニュースの確認 紛争の背後にある宗教とその可能性について考えさせる。</p> <p>【展開】「ユダヤ教の歴史」について講義 ユダヤ教と民族の歴史を確認し、宗教がもたらす対立の歴史を確認する。</p> <p>【展開】「イスラム教の歴史」について講義 オスマントルコの政策を学び、平和を考えさせる。</p> <p>【展開】自分の意見をまとめる活動</p> <p>講義後、「宗教は対立を生むものなのか、平和を生むものなのか」について意見をまとめさせる。</p> <p>【まとめ】 授業の振り返り</p>	<p>「宗教は対立を生むものなのか、平和を生むものなのか」と発問する。</p> <p>講義形式 「何故、ユダヤ人はイスラエルに建国したか？」と発問し、宗教的背景の大きさを確認させる。</p> <p>講義形式 民族・宗教が歴史的に共存してきたことを把握させる。</p> <p>ワークシート使用</p> <p>宗教のもつ意味を確認させる。</p>
第8時	<p>【導入】最新ニュースの確認 平和にむけての、国際的な動きを確認する。</p> <p>【展開】「最近の平和へのプロセス」についての講義</p> <p>【展開】グループディスカッション この紛争の解決策はどこにあるのかを再考し、自らが貢献できることは何であるかを考えさせる。</p> <p>【展開】グループごとに討議の結果と解決策を表明</p> <p>【まとめ】ユニセフビデオ視聴</p>	<p>最新時事ニュースを通して流動的に動く情勢を理解する。</p> <p>講義形式 「あなたの平和への提案は」と発問。 4・5人のグループで、各人が解決策を最低一つ表明し、それぞれの解決策について討議する。ワークシート使用</p> <p>ビデオ「子ども兵士をなくそう」を見ることで、パレスティナ紛争以外の問題に関心を抱かせる。</p>
第9時	<p>【導入】最新ニュースの確認 前回の授業で提案した解決策を確認する。</p> <p>【展開】WEB制作 「企画」・「制作」 「世界の苦しんでいる子どもたち・若者のために貢献できることは何か」をWeb制作を通して考えさせる。パレスティナだけでなく、世界の子どもたちの置かれている状況をユニセフの活動を通して確認する。</p>	<p>「君たちが、世界の子どもたちに貢献できることは何か？」と発問する。 ユニセフの活動や今まで学習したことをふまえ、自分の貢献できることを一つ提案させる。 企画シートで構想を練らせる。</p>
第10時	<p>【導入】世界の子ども・若者たちの現状を確認</p> <p>【展開】WEB発表及び相互評価 各自制作したWEBコンテンツを閲覧し、相互評価を行ない、その評価結果を発表する。</p>	<p>世界を意識しながら、考え・行動することができるようになることを確信させる。</p> <p>互いの貢献策に関心をもつことで実際の行動に結びつく契機とさせる。 評価後、今一度、世界との自分の接点が何であるのかを振り返らせる。</p>